

国際会計基準審議会(IASB)は、概念フレームワークの改訂を完了し、2018年3月29日に新しい「財務報告に関する概念フレームワーク」(Conceptual Framework for Financial Reporting) (以下、「新フレームワーク」という)を公表した。新フレームワークは、2010年9月に公表されて以降用いられてきた「財務報告に関する概念フレームワーク」(The Conceptual Framework for Financial Report) (以下、「2010年フレームワーク」または「旧フレームワーク」という)を刷新し、一般目的財務報告(General purpose financial reporting)の目的およびその基礎的な概念を新たな構成と内容で規定している。新フレームワークは、2010年フレームワークと同様に、今後のIASBによる基準の開発に用いられるほか、個別の基準書が存在しない領域における企業の会計方針の決定と関係者による国際財務報告基準(IFRS)の基準書解釈の参照軸となり、基準設定とIFRSによる財務報

告の実務の両面に影響を与える重要な文書である。本特集では、こうした新フレームワークの意義を踏まえ、新フレームワークの内容を2010年フレームワークからの変更点を中心に概説し、新フレームワークによって導入された変化がIASBの基準設定およびIFRSによる財務報告の実務にどのような影響を与え得るかを考察する。最後にこうした影響を総括し、変化へ対応する方法を検討する。なお、IASBは、新フレームワークの公表にあわせて、関連する基準書および解釈指針等の改訂(IFRS基準における概念フレームワークへの参照の修正(Amendments to References to the Conceptual Framework in IFRS Standards)) (以下、「関連基準の修正」という)を公表しているため、この改訂についても本稿で取り上げる。文中意見にわたる箇所は私見であり、かつ書きで示した項番は特記しない限り新フレームワークの項番である。

Part 1

約30年ぶりの全面改訂 新概念フレームワークの ポイント

新フレームワーク の公表までの経緯

新フレームワークが2018年に公表されるまでの期間、図表1に要

約した経緯を経て、概念フレームワークは変化を重ねてきた。

新フレームワークにおいては、2010年フレームワークの内容が変更なしに踏襲されている部分もあるが、後述するとおり相当部分にわ

たり2010年フレームワークに変更または追加が加えられている。

2010年フレームワークの改訂は一般目的財務報告の目的と有用な財務情報の質的特性という範囲に限定されていたため、新フレームワーク

新フレームワーク の開発方針とその 特徴

新フレームワークは、2010年フレームワークを基礎とし、その欠

は、1989年フレームワークの公表から起算して、約30年ぶりの全面改訂とも位置づけられよう。
IASBは、2013年ディスカッション・ペーパーにおいて、新フレームワークを2015年を目標として完成させるとしていた⁽¹⁾。その後の2015年公開草案においては、2016年の最終化が目標とされていた⁽²⁾。当時のIASBの目標設定に対しては十分な検討期間という観点から懸念も聞かれたが、最終的には当初の完成目標から3年遅れの2018年に新フレームワークの公表に至っている。2015年公開草案には3名の理事が反対意見を示していたが(2015年公開草案A V1)、新フレームワーク完成時にはこのうち2名の理事が交代し、当時反対していた1名の理事を含め賛否を示した理事全員が新フレームワークの公表を承認している。
⁽¹⁾ 2013年ディスカッション・ペーパーの Summary and invitation to comment 参照。
⁽²⁾ 2015年公開草案(Summary and invitation to comment) 参照。